

# しょうわ つうしん Show-a 通信

2015.3  
第15号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和 (Showa)」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。  
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

検査時間約10分で大腸内を診る

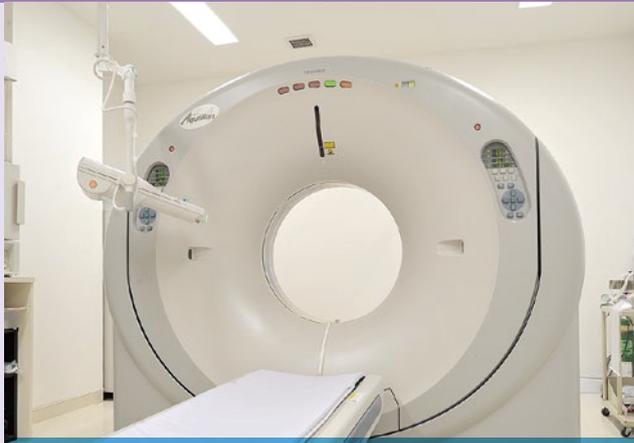
## 大腸CT検査

放射線科 放射線技師 高林 健



# 大腸CT検査

バーチャル大腸内視鏡



画像診断装置の発達と  
画像解析の進歩で  
3D画像化が実現



大腸の検査や診断は、従来から行われていた大腸内視鏡検査が一般的ですが、近年、「大腸CT検査」が広まりつつあります。当院では「患者さんへの負担が少ない術前補助診断ができる」として2006年に導入し、その後、スクリーニングに適応を拡大し、大腸がんの早期発見につなげています。

大腸CT検査は、64列マルチスライスCTで撮影したデータをコンピュータ処理で3D画像化し、大腸の腫瘍性病変などの観察や診断を行う方法です。

従来の大腸内視鏡検査と大きく異なるのは、肛門から内視鏡を挿入せずに検査ができること。検査寝台に横になっている患者さんに大腸を膨らますための炭酸ガスを肛門から注入し、大腸内に行き渡ったところで撮影します。検査時間は10分程度で、体位の変換も1、2回で済むことから、高齢者でも高い精度の大腸検査を楽に受けることが可能です。

米国では大腸CT検査が有効な大腸がん検診法としてガイドラインに掲載されていますが、日本では2012年に保険適応となったばかりです。

しかし当院では、すでに2000人近く(2014年12月末現在)の実績があり、精度の高いスクリーニング検査として、大腸がんの早期発見に貢献しています。

大腸がん検査は「1年に1度」を継続することが重要です。当院では大腸CT検査と大腸内視鏡検査を交互に実施するなど、計画的な健康管理をご提案しています。

わずか10分のCT撮影で  
大腸を3D画像に

約2000人の実績で  
スクリーニングに貢献



放射線科  
放射線技師  
**高林 健**

北海道大学医療技術短期大学部診療放射線学科 卒業  
1999年4月、医療法人彰和会北海道消化器科病院  
放射線科に入職。2012年、X線CT認定技師取得。

【所属学会など】

日本放射線技術学会、日本超音波検査学会、  
日本消化器がん検診学会、  
日本放射線技術学会北海道部会 CT 専門委員、  
消化管先進画像診断研究会 (GAIA) 世話人

共同執筆者の一人として  
大腸CT診断を学ぶための  
マニュアルの作成に  
参加しました



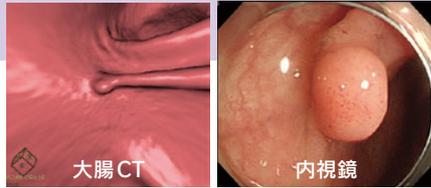
## 検査事例

**40歳代・男性**  
 身長／179cm  
 体重／81kg  
 BMI／25.3  
 腹囲／93cm  
 主訴／便潜血検査陽性

人間ドックで便潜血検査陽性となったことから、大腸CT検査を実施。大腸CT検査で3カ所（直腸、S状結腸、下行結腸）のポリープを確認し、当院で内視鏡的に切除しました。

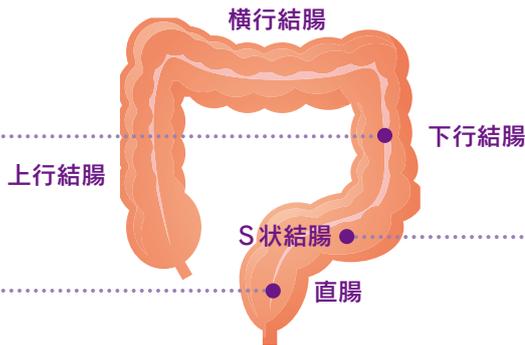
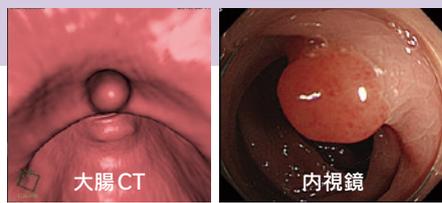
### 下行結腸

無茎性ポリープ  
6mm 腺腫



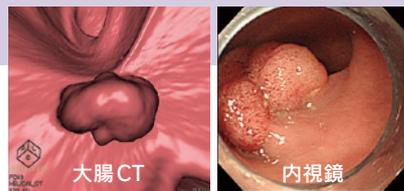
### S状結腸

無茎性ポリープ  
6mm 腺腫



### 直腸

有茎性ポリープ 30mm  
早期大腸がん  
(高分化型管状腺がん)



## 大腸CT検査の流れ

1

事前に腸管洗浄剤800mlを飲み、大腸の中をきれいにします  
 ※大腸内視鏡検査では2000ml

2

専用の検査着に着替えます

3

CTの寝台に横になり、肛門から細いカテーテルを入れ炭酸ガスを注入し、大腸内にガスが行き渡ったら撮影を開始します

4

撮影は仰向けとうつ伏せの2体位で撮影をします  
 ※大腸内に入れた炭酸ガスは体内に吸収されるため、お腹の張りは検査後に急速に減少します

※CTの寝台に横になってから撮影を終えるまでは10分ほどです

大腸内視鏡検査が困難だったり苦手な方は  
**大腸CT検査**をご利用ください

長所

- 大腸のひだの裏などの病変の観察に優れています
- 鎮静剤を使わずに検査ができます
- 痛みなどの苦痛がほとんどありません
- ポリープの大きさや位置が正確に分かります

短所

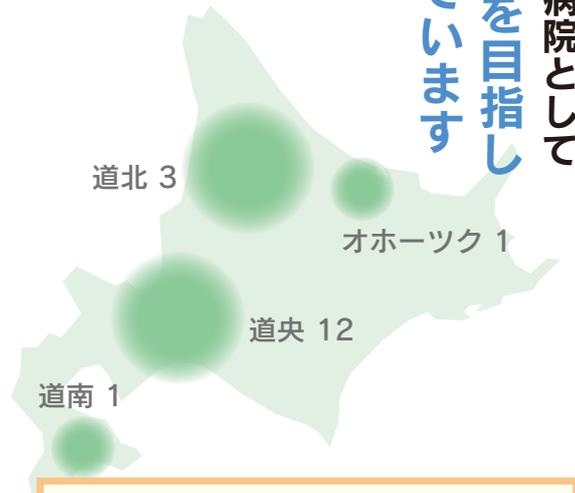
- 表面型病変や5mm以下のポリープを見つける能力は大腸内視鏡検査に比べて劣っています
- 細胞の検査（生検）やポリープ切除などの治療をすることはできません
- 非常に少ないですが、CT撮影時に医療被ばくがあります

## 北海道消化器科病院 大腸CT検査件数

	年度別検査件数	累計検査件数
2006年	145	145
2007年	184	329
2008年	165	494
2009年	174	668
2010年	320	988
2011年	249	1237
2012年	214	1451
2013年	255	1706
2014年	247	1953

北海道がん診療連携指定病院として  
地域医療水準の向上を目指し  
研修を企画・開催しています

当院は「北海道がん診療連携指定病院」として地域においてがん診療の中心的な役割を担うため、集学的治療や緩和医療を実施し、相談体制を整えています。また、職員や近隣の医療関係者を対象にがん医療に関する研修会を実施したり、合同の症例検討会を定期的に開催しています。



北海道がん診療連携指定病院とは

2013年度に創設された北海道の制度。指定要件を満たしている道内の17施設（2014年4月1日現在）が認定を受け、がん医療の均てん化や在宅がん医療、緩和ケアの充実に向けて活動しています。札幌には当院を含め7施設が指定されています。

共催

11/13 北海道医師会認定生涯教育講座  
大腸癌化学療法セミナー～個別化治療の展望～

◆講演1「大腸がん化学療法を受けている患者への意思決定支援～治療期間が3年に及んでいる患者の意思決定支援を通しての学び～」

講師：北海道消化器病院 看護部 緩和ケア認定看護師 蛭子智美

◆講演2「当院におけるレゴラフェニブの副作用発現状況について」

講師：北海道消化器科病院 薬剤部 地主隆文

◆特別講演「大腸癌化学療法の個別化治療の今後について」

講師：KKR札幌医療センター・斗南病院 腫瘍内科  
センター長・科長 辻靖先生



院内研修会

12/4 第2回 緩和ケア症例検討会

◆テーマ「胃がんにおける緩和ケア」

アドバイザー：北海道大学病院  
緩和ケアチーム 田巻知宏先生



主催

1/20 第2回 在宅緩和ケア推進研修会

◆講演「在宅緩和ケアの実際について」

講師：みきファミリークリニック  
院長 三木敏嗣先生



10/2 炎症性腸疾患勉強会

◆講演「当院におけるIBD症例報告」

演者：北海道消化器科病院 内科部長  
加賀谷英俊

◆特別講演「炎症性腸疾患治療の目標と戦略」

演者：札幌東徳洲会病院IBDセンター  
センター長 前本篤男先生



1/29 消化器画像セミナー

◆特別講演「肝臓における造影3次元超音波の臨床応用」

演者：旭川医科大学 内科学講座  
病態代謝内科学分野  
講師 麻生和信先生



医療法人 彰和会  
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、  
放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：211床